

カナダ マギル大学での研究とモントリオールでの生活

派遣期間: 2012.11.01~2013.01.31

派遣国名:カナダ 受入機関: マギル大学



写真1: Prof. Joannの研究グループ



写真2&3: マギル大学のマクナルド・キャンパス



私は、組織的な若手研究者等海外派遣プログラムの支援を受け、カナダ、モントリオールにあるマギル大学に平成24年11月1日から平成25年1月31日まで約3カ月間滞在し Prof. Joann の研究グループのもとで、研究を行いました。

環境立国として知名度の高いカナダ政府からの全面的な支援を受け地球温暖化対策に向けた様々な研究が行っている McGill 大学は立派な施設と多くの優秀な研究者が整備されていました。私はマギル大学の Soil Ecology Research Lab.で

計画した'Utilization of biochar impregnated with anaerobically digested slurry as slow-release fertilizer'

に関する研究をおこないました。さらに Prof. Joann の研究グループで現在研究中の課題も参加して土壌-作物とバイオチャーの相互作用、バイオチャーのライフサイクル評価(LCA)などの世界的な研究動向を把握することができました。

モントリオールの冬は凄く寒いと思いましたが11月と12月は予想より雪も降らずにあまり寒くなかったです。しかし1月になってからは本当に寒い日々が続いており、いきにくさんの雪が降って、気温も約-30℃まで下がった日も多かったです。

そして予想と違ったもう一つは、フランス語の使用でした。もちろん英語も普通に使いますがモントリオールの街看板や道路標識は全てフランス語で表示されてフランス語を使う人が多かったです。

今からは今回のマギル大学での派遣で得た知識と経験に基づいて先端的なバイオチャーの利用研究を推進し、研究能力・国際競争力の向上を図ると共にマギル大学の優秀な研究者たちと九大内のバイオチャー研究グループ(凌教授)と持続的な研究交流することにより、日本とカナダのバイオチャー関連の教育研究交流が促進されるように力をつくしたいと思います。

最後に、本派遣事業においてご支援いただきました凌先生と環境農学部門 生産環境科学分野の先生方や農学研究院(農学部)の多くの方々に心から深く御礼申し上げます。